

ぎゅつとつまつた大洲市がここに 音頭ムービー完成披露上映会へ

HONKIプロジェクトが、大洲市合併10周年を記念して、約1年をかけて制作した「音頭ムービー」の完成披露上映会が1月11日(日)、市総合福祉センターで開催されました。

上映会は、昼と夜の2回行われ約230人が参加しました。幼児から高齢者まで延べ1040人が笑顔で踊っている映像を見た参加者からは、歓声が上がっていました。

なお、今回完成した映像は、インターネットで見ることができます。

<http://honki-ozu.com>



如法寺仏殿にょほうじの修理完成見学会を開催

平成22年度から約4年にわたりに行われていた、如法寺の修理工事がこのほど終了し、完成見学会が1月24日(土)・25日(日)の両日行われました。

見学会には、県内外から69人が参加し、工事の設計監理を務めた文化財建造物保存技術協会の前堀勝紀まえばりかつのりさんにより、修理箇所や内容などの説明を受けました。

今回、およそ5億5800万円かけて、腐朽やシロアリの被害が進行していた部分が修理され、防災施設も併せて整備されました。



「スマートフォン使用に関する統一ルール」調印式

大洲市PTA連合会教育懇談会が1月17日(土)、国立大洲青少年交流の家で行われました。

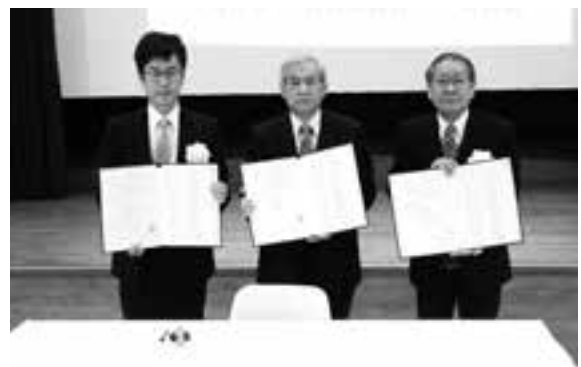
市PTA連合会では、最近急速に普及したスマートフォン(スマホ)などで、小中学生がトラブルやいじめ、犯罪に巻き込まれることを憂慮し、各家庭での使用方法などについて見直しを行っていました。

そこで今回の教育懇談会において、市教育委員会および市校長会の同意を得て、「小中学生のスマートフォン使用に関する市内統一ルール」を定め、叶本正教育委員長と岡田廣温校長会長、谷本益高市P連会長の三者による調印を行いました。

この統一ルールでは、必要のないスマホなどは持たせないとしたうえで、所持する場合のルールとして「保護者用3カ条」と「児童・生徒用3カ条」を掲げています。

児童・生徒向けには、「夜9時以降は保護者に返す」「1日の使用時間を決める」「人の悪口を書かない」「いじめには使わない」などとし、保護者に対しては、「フィルタリングをする」「定期的に通信内容・使用状況を確認する」などとなりました。

この調印により、学校を通じて市内統一ルールに基づいた保護者と子どもとの「誓約書」が、各家庭に配られています。



男女共同参画社会づくりセミナーを開催

大洲市女性団体連絡協議会と、おおず女性塾の共催による男女共同参画社会づくりセミナーが、1月25日(日)、大洲市総合福祉センターで開催されました。

開会で、大洲市女性団体連絡協議会の三好康子会長は「私たち女性団体連絡協議会は、日ごろから男女共同参画に対する、さまざまな取り組みを実践している。女性塾でも、家庭・地域における男女共同参画を推進するための講座を開催し、いきいきとした社会づくりを目指している。本日のセミナーが、男女共同参画のきっかけになることを祈念している」とあいさつされました。

セミナーでは、落語家の笑福亭松枝さんによる「共同参画で四角じゃない丸い社会」と題した講演が行われました。講演では、「今までの社会は、全て男性主導でつくられてきた。しかし、女性が参画していないと本当に住みよい社会づくりはできない。また、相手がお互いの理解に努め、協力することがこれからの社会には大切である」と話されました。

およそ120人の参加者は、松枝さんの落語を交えた講演に引き込まれ、笑いと共に男女共同参画について深く考える一日となりました。



市民の安全を守るために ～平成26年度愛媛県・大洲市国民保護共同図上訓練～

武力攻撃や緊急処理事態が発生した場合の、国や県との迅速かつ的確な初動対応や情報伝達、関係機関との連携機能の強化を目的とした国民保護共同図上訓練が1月28日(水)、県庁と市役所大ホールの2会場で同時に実施されました。

大洲市が国民保護訓練を実施するのは初めてで、内閣官房、消防庁、県、防災関係機関など36機関・約230人が参加しました。

訓練は、国際的テロ組織が銃器や天然痘ウイルスを所持し、大洲市文化研修センターに人質をとって

立てこもるという想定で行いました。

市の訓練会場では、市職員・大洲消防署・大洲警察署・自衛隊など約75人が、それぞれの班に分かれて、愛媛県会場と電話・ファクスによる情報連携、国からの通知に基づく住民への警報伝達や住民避難の検討など、万が一の事態に備えた訓練に取り組みました。

また、迅速な決断を迫られる状況を想定し、市長がテレビ会議で県知事に対し市の状況を報告し、市への物資などの支援を要請しました。



防災シリーズ No. 5

災害に備えて準備しておくもの

「非常持出品」は、ヘルメット・ラジオ・食料など、避難する時に最初に持ち出すものです。

「備蓄品」は、災害復旧までの期間を生活するために準備するものです。まずは、災害発生時に最初に持ち出すものを備えましょう

避難する時に持ち出すべきものを袋に入れ、玄関など持ち出しやすい場所においておきましょう。

▽ヘルメット（防災頭巾）、軍手



身を守るものを用意。スリッパや運動靴も備えて、足のけがにも注意しましょう。

▽懐中電灯



できれば、一人にひとつ用意。予備電池も準備して、夜間の避難に備えましょう。

▽携帯ラジオ



小型で軽いAMとFMの両方を用いるものを用意。予備電池は多めに、どこでも情報収集できるようにしましょう。

▽飲料水、非常食



飲料水は、一人当たり1日3リットルを目安に。非常食は、乾パンや缶詰など、火を通さずに食べられるものを1日3食分備えましょう。

▽その他の非常持出品



救急医薬品、常備薬、衣類、タオル、食器、ライター、缶切り、栓抜き、ろうそく、ナイフ、ビニール袋、ビニールシート、生理用品、携帯電話充電器などを用意しましょう。

備えの目安

一人当たり7日分。持ち出す食料は、3日分程度としましょう。

文化財



如法寺のツバキ（三株）
愛媛県指定天然記念物
如法寺所有

このツバキ3株は、大洲藩主加藤家の菩提寺である如法寺境内にあり、樹齢150～300年といわれています。

3株のうち1株は「五色散椿」で、白・赤・ピンク・絞りなどに咲き分けられます。普通のツバキは、花が丸ごと落ちますが、このツバキは花びらが一片ずつ散るのが特徴です。また、加藤清正が朝鮮から持ち帰り、豊臣秀吉に献上したと伝えられる京都の地蔵院（椿寺）にあるツバキの分身ともいわれています。

残りの2株は、「酒呑童子」と呼ばれるツバキで、真っ赤な大きな花が「大江山の酒呑童子」の赤ら顔に似ていることから名付けられたとされます。県内では本市と伊予市だけに見られる品種で、伊予の5大ツバキの一つに数えられています。

毎年2月から4月ごろまでの間に花が咲く本樹は、愛媛県下でも株数の少ない貴重な品種といえます。

（昭和52年4月15日指定）

野鳥



コジュリン（小樹林）
スズメ目ホオジロ科
全長 14.5cm

コジュリンは、スズメより少し小さい、茶色の地味な野鳥です。阿蘇山麓、本州中部以北の葦原や草原で子育てしますが、その時期の雄の頭は、黒い頭巾をかぶったように真っ黒になります。

越冬のために南下してきますが、本来生息数も少ないので、県内でも、まれに観察されるくらいです。数年前に矢落川の河川敷で出会ったことがあります。餌が乏しく寒さが厳しい冬に小鳥は集団になり、天敵の猛禽類から身を守ることを進化の過程で身につけたようです。

人類も、コジュリンとホオジロのように仲良くできないのでしょうか。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

大洲の食育

中学生・高校生のための料理教室

大洲市食育推進事業の一環として、「中高生のための料理教室」が昨年12月13日(土)に開催されました。市内の中学校および高等学校に通う生徒14人が、キャラクター弁当とクリスマス料理づくりに挑戦しました。

生徒たちは、調理の基本で

ある計量スプーンなどの器具を使い調味料を量ったり、包丁を駆使して細かい作業をするなど、楽しみながら調理技術を習得しました。雪の降る寒い一日でしたが、参加者の会話と笑顔で心が温まる教室となりました。



手軽で簡単なレシピ集 Vol. 5

<タケノコと絹さやの白あえ>



(材料2人分)

タケノコ (ゆで)	100g	A	白みそ	小さじ2
絹ごし豆腐 1/2丁 (150g)			砂糖	小さじ2
キヌサヤ	20g		しょうゆ	小さじ2分の1
塩	少々			
ニンジン	30g			
ピーナツ	10g			

作り方

- ① 絹ごし豆腐は、しっかりと水切りする。
- ② タケノコは、食べやすい大きさの薄切りにする。
- ③ キヌサヤは、筋を取ってさっと塩ゆでし、斜め半分に切る。
- ④ ニンジンは皮をむいて、4～5cm長さのせん切りにしてゆでる。
- ⑤ すり鉢にピーナツを入れて、粗くすりつぶす。
- ⑥ ⑤に絹ごし豆腐を加え、なめらかになるまでよくすり、Aを加える。
- ⑦ ⑥とタケノコ、キヌサヤ、ニンジンを一緒にあえて、皿に盛りつける。

ータケノコのおく抜き方法ー

タケノコは、外側の皮を2～3枚取り、皮のまま水洗いして汚れを落とす。次に、頭の部分を斜めに切り落とし、皮の部分に縦に1本切れ目を入れる。鍋にタケノコがかぶるくらいの水と米ぬか、トウガラシを入れ、タケノコが浮かばないようにして1時間ほどゆでる。
※米ぬかがないときは、米のとぎ汁で代用可能

【レシピ提供：大洲市保健センター】

大洲藩主加藤家の文化財（第拾幕）

加藤泰済（かとうやすずみ）



大洲藩10代藩主加藤泰済は、天明5年（1785）9代藩主加藤泰候の5男として大洲に生まれ、天明7年（1787）父の急死により家督を相続しますが、相続の都合上、幕府への届け出は天明元年（1781）生まれとして報告されました。

泰済は、大伯母（7代藩主加藤泰武の娘）が白河藩主でのちに老中となる松平定信の継室（後妻）となったことから、幼少のころより定信に愛され、具足召初（儀式に際しては定信が因親になるだけ）でなく、享和2年（1802）には定信の娘を妻に迎えるなど、定信との関係は非常に深いものでした。

若くして藩主となった泰済は、学問志向が強く、藩学であった陽明学以外にも朱子学や橋家神道を学ぶなど、一つに偏らず広く学問を学ぶという泰済の諸学志向の精

神は、その後の藩の学風となりました。

このため、藩領内では各種著作物の編纂も活発となり、『富士山志』、『予州大洲好人録』、『農業状筆録』などの編纂物が相次いで刊行されました。

泰済自身も、自らが尊敬する北宋の政治家韓琦の著作物『韓魏公集』全集の刊行を企画します。

文政9年（1826）4月から取り掛かり、順次刊行されますが、刊行途中の同年9月20日江戸において42歳で没しました。

遺骸は、大洲へ運ばれ龍護山曹溪院にある藩祖光泰の廟所の横に葬られ、忌日は遺命により光泰と同じ29日と定められました。これは、藩祖顕彰を図った泰済が死してもなお光泰の顕彰を体現化しようとしたものと考えられます。

泰済の墓碑は特徴的で、他の藩主全員が五輪塔であるのに対して唯一笠塔婆の形となっています。



加藤泰済の墓所（龍護山）

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

平成17年に4つの市町村が合併して、新しい大洲市になりました。合併10周年を記念して、「HONKIプロジェクト」がスタートし、1年をかけて肱川・大洲・長浜・河辺の4つの音頭を美しい映像で撮りました。総勢1,040人が音頭を踊り、かけがえない風景と、地域の人たちの暮らしがたくさん詰まった映像ができました。

素晴らしい大洲が詰まった音頭ムービーを、ぜひ鑑賞してみましょう。

【今月のクイズ】

HONKIプロジェクトのHONKIとは、なんの事でしょうか。

- ① 大人が本気になった気持ちを表した。
- ② メンバーの名前の頭文字を一文字ずつ表した。
- ③ 4つの地域の頭文字と愛を掛けあわせて表した。



【先月号のクイズの解答・解説】

ノーベル賞授賞式の後、マスコミからのインタビューで、コメントを求められた赤崎教授は「大変緊張していました」、天野教授は「メダルはとても重いです」とコメントしました。

それでは、その時の中村教授は、なんとコメントされたのでしょうか。

- ① メダルは、まさに金色です
- ② メダルは、ただの金属です
- ③ メダルは、とても固いです

解答…②

解説…中村修二さんのこのコメントは、とても印象的でした。変わったコメントだなと思ったと同時に、中村さんの性格を表しているようで面白かったです。きっと、実直で、真面目な人なのでしょう。



※今月のクイズの答えは、広報大洲4月号に掲載します。



1月28日(水)

継続は地域の力なり

～徳森婦人会アルミ缶回収表彰～

長年にわたるアルミ缶回収活動が評価され、徳森婦人会が、アルミ缶リサイクル協会より感謝状を贈呈されました。

団体としては愛媛県で唯一選ばれ、婦人会のメンバーからは「地域に運動が広がった結果でうれしい」「これから10年先へ向けて、また地道に続けていきたい」といった喜びの声が聞かれました。



1月10日(土)

1年間の無病息災を願って

～第27回とうど焼き～

長浜のとうど焼きは、「小正月の火祭り」ともいわれ、場所によっては「どんど焼き」や「左義長^{さぎちやう}」とも呼ばれています。木や竹で櫓を組み、そこに正月に使ったしめ飾りを入れ、豪快に燃やすことで無病息災・五穀豊穰などを祈ります。

この日はたこ揚げ大会も行なわれ、地元の児童生徒が自慢のたこを空高く揚げていました。



2月1日(日)

大洲藩鉄砲隊松山に見参

～ふるさとCM大賞えひめ'15審査会～

今年で10回目を迎える、愛媛朝日テレビ主催ふるさとCM大賞えひめ'15審査会が、松山市総合コミュニティセンターで開催されました。

大洲市からは、大洲藩鉄砲隊が制作した作品を出品しました。審査会の最初に登場した鉄砲隊は、ステージ上で見事なパフォーマンスを披露し、会場を大いに沸かせていました。



1月11日(日)

寒風吹くなか新春の肱川に

～第61回大洲市寒中水泳大会～

毎年恒例の大洲市寒中水泳大会が、肱川橋上流で開催されました。5歳から73歳までの78人の参加者が、気温11度水温7度の寒さの中、新春の肱川で初泳ぎを行いました。

また、大学生による水書や日傘、主馬神伝流^{しゅめ}の泳法が披露されると、詰め掛けた観衆から大きな歓声が上がっていました。